

## 平成 23 年度広島県公民館等職員研修会（西部会場第 1 分科会）

分科会テーマ	公民館における高齢者教育
発表内容	過疎地における世代間交流
発表者	上杉巧実（廿日市市浅原市民センター）
コーディネーター	中本 篤子（大竹市教育委員会） 松田 愛子（広島県立生涯学習センター）
運営委員	徳田 久美（廿日市市友和市民センター）
記録者	水川 裕章（広島市二葉公民館）
<p><b>1 オリエンテーション（テーマ・目標・進め方の確認）</b></p> <p><b>2 アイスブレイク（自己紹介）</b></p> <p><b>3 事例発表</b></p> <p>「過疎地における世代間交流」発表者：廿日市市浅原市民センター 上杉 巧実          少子高齢化、人口減少が進む過疎地域の中で、地域活性化のために取り組んでいる高齢者教育、世代間交流の事例（魚のつかみ取り、ふるさとふれあい神楽、浅原サロン等）を紹介し、その課題と今後の展望について発表を行った。</p> <p><b>4 質疑応答・意見交流</b> 事例発表に関する質疑（類似事例紹介）</p> <p>〔北広島町千代田中央公民館 田坂〕          旧千代田町全体を担当する公民館であるが、世代間交流事業は行っていない。旧千代田町は、6 地区に分かれるが、世代間交流事業は各地区単位で地域が主催して行われている。（グランドゴルフ等）</p> <p>〔安芸高田市市民文化センター 吉井〕          世代間交流事業は行っていないが、男性料理教室には退職後の男性に人気があり、講座参加者が公民館まつり等で、うどん販売等を行い地域の人と交流している。</p> <p><b>5 グループワーク</b></p> <p>目標「高齢者が学んだことを地域で生かし、次の世代へ伝えていくために、公民館でどのような取組ができるか考えてみよう」</p> <p>（1）参加者の各地域での課題を出しあう。          （2）課題を解決するための取組について考える。          （3）グループ発表</p> <p><b>グループA</b></p> <p>【課題①】高齢者と若年層の活動時間・場所にずれがある。          ⇒対応案：学校の総合学習の一環としての講座を、学校側、高齢者側双方から提案する。</p> <p>【課題②】人間関係に難がある。 ⇒対応案：難しい課題ですぐに解決策が浮かばない。</p> <p>【課題③】伝統文化は無形なので伝承が難しい。 ⇒対応案：公民館講座として、CD・印刷物にまとめ、学校等の教材として活用し、若い世代に継承する。</p> <p><b>グループB</b></p> <p>【課題①】交通の便が悪い。 ⇒対応案：出前講座を実施する。</p> <p>【課題②】リーダーや世話役がいない。 ⇒対応案：ボランティア育成に努め、幅広く声をかける。</p> <p>【課題③】高齢化が進展。 ⇒対応案：中高年齢対象の講座を増やす。</p> <p>◎グループC</p> <p>【課題①】参加率が低い。（交通の便が悪い、男性参加者が少ない） ⇒対応案：誘い合って参加してもらう。男性対象講座、誰でもできるスポーツ講座等の実施</p> <p>【課題②】地域との交流の広げ方がわからない。 ⇒対応案：小学生との交流事業等、今ある講座を生かし小学生を足掛かりにして地域交流を広げる。</p> <p><b>グループD</b></p> <p>【課題①】講座のマンネリ化 ⇒対応案：活動グループによる講座、高齢者による講座開催を促進する。</p> <p>【課題②】世代間交流の不足 ⇒対応案：地域行事やイベントの機会を活用する。</p> <p>【課題③】講座に参加できない（多忙、移動手段等の問題） ⇒対応案：高齢者同士で誘い合ってもらおう。高齢者のニーズに合った講座を増やす。出張講座を実施する。</p> <p><b>グループE</b></p>	

- 【課題①】 高齢利用者の減少。 ⇒対応案：広報を工夫する。口コミを活用する。出前講座を実施する。
- 【課題②】 交通の便が悪い。 ⇒対応案：出前講座を実施する。地域団体等と共催する。
- 【課題③】 人材確保が難しい。 ⇒対応案：人材バンクを設置する。そのために、地域交流を充実する。

※初任者としての素朴な疑問

- ・何を目的にして事業をするのかイメージできていない。
- ・子ども・老人の交流は行われているが、そこに公民館がどう絡めば良いかわからない。

## 7 グループでの振り返り

### 8 コーディネーターから一言

本日のグループワークでは、「高齢者が学んだことを地域で生かし、次の世代へ伝えていくために、公民館でどのような取組ができるか考えてみよう」というテーマでグループワークを行い、各地域での課題を出しあい、課題を解決するための取組について考えていただいた。

テーマのうち、「高齢者が学んだことを地域で生かし、次世代へ伝えていく」という部分については、具体例をイメージするのが難しいという意見が多かったため、その観点での協議が難しいグループについては、高齢者教育に関わる取組事例についてをテーマとして取り組んでいただくこととなった。

高齢者の皆さんが学ばれたこと、これまでの人生で積み重ねられてきたことなどを、それっきりで終らせないで、地域社会に生かし、次の世代へとつなげていく、それがまた高齢者の生きがいやもっと学びたいという意欲につながっていくという「学びの好循環の構築」をめざしたい。高齢者と地域社会、高齢者と若い世代をつなげる世代間交流といった、「人と学び」、「人と人」、「人と地域社会」等をつなぐ「コーディネート」の力が公民館等の職員の皆さんにも求められている。本日協議いただいたテーマや出された課題については、簡単に解決できるものではないかもしれないが、本日のワークで出されたアイデアや研修の成果を今後の業務に生かし一歩でも前に進めるように一緒に取り組んでいきましょう。

コーディネーターの所感

○発表者とコーディネーター2名の3者で事前に打合せの場を設け、分科会全体の進行と事例発表の内容のすり合わせを十分に行えたため、円滑な分科会を運営することができた。

○参加型学習の形態に慣れていない(受動型学習を期待している)参加者の方が多く、また、参加者にとってテーマ設定が少し難しく感じられたこともあり、グループワークの出だしではとまどいが多く見られた。コーディネーターが各グループをまわって支援を行うとともに、グループの中の経験豊富な方が中心となり、だんだんと討議が盛り上がっていった。時間配分等は概ね適当だった。

○コーディネーターを二人で行うことで、全体の進行役とグループ内の支援やホワイトボードの板書といった補助役とで役割分担することができたため、会の状況に応じた運営をすることができた。

○グループワークのテーマの中の「高齢者が学んだことを地域で生かし、次の世代へ伝えていく～」といった概念に対して、イメージしにくい、具体例を考えられないといった意見が多く出た。今回は、テーマに沿った討議が難しいグループについては、「高齢者教育に関わる取組事例」というテーマに変えて取り組んでいただくこととなった。高齢者の学習成果の活用についての理解や意識付けについての工夫が課題である。